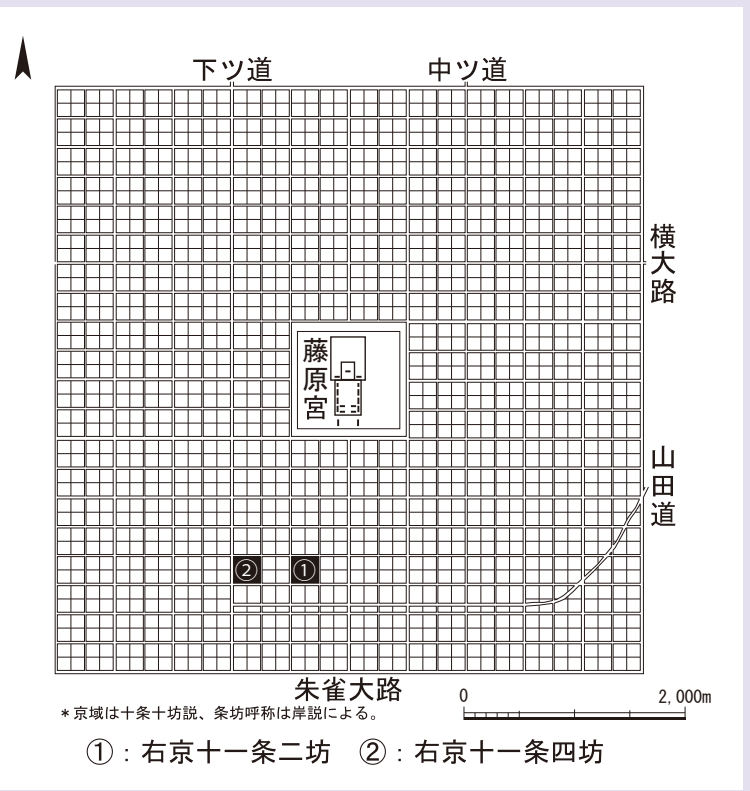


調査位置図
「国土地理院発行1/25,000地形図(畝傍山)を使用」



藤原京内における調査位置図

調査の成果

①右京十一條二坊 今回の調査地は、橿原市石川町に所在します。平成22・24年度の県道建設に伴う発掘調査において、藤原宮期と考えられる大規模な掘立柱建物1棟の存在が確認されました。そこで今回、この地点の東側において建物の規模を確認するための調査を実施しました。

調査の結果、建物のつづきとして2間分の側柱の柱穴と妻部分の柱穴がみつき、建物の東端を確認することができました。建物は桁行16間、梁行2間で、規模は東西約51.5m・南北約6.0mであることがわかりました。西で南にわずかな振れを持つ東西棟です。藤原京条坊関連の南北方向の溝（西二坊坊間路か）より新しいことや、先行する建物との関係から藤原宮期後半（8世紀初）に新たに設けられた建物と考えられます。

このような長大な建物は、藤原宮域を除く藤原京内では最大規模になります。一般の宅地内建物ではなく、公的な施設や寺院に関わる建物となる可能性が高いと考えられます。

②右京十一條四坊 今回の調査は、県道橿原神宮東口停車場飛鳥線建設事業に伴い実施しています。調査の結果、流路や溝、土坑などを検出しました。

検出した流路は、確認した範囲で長さ約240m、幅約12m、深さ約2mです。調査区内を東から西にやや蛇行しながら流れています。「しがらみ」数基の設置や、修羅の未成品の出土もあります。埋没の時期は、出土遺物から鎌倉時代～室町時代に当たる14世紀前半と考えられます。また、流路の南側に沿うように、溝を数条検出しました。流路の埋没と流水が繰り返されるなか、溝の掘削も繰り返されていたことがわかります。

当地には、現在も農業用の水路が存在しています。今回検出した遺構は、その前身とも考えられ、当時から現在にいたる水利状況を知る上で、興味深い成果を得ることができたといえます。

なお、今回の調査地は、古代の幹線道路である下ツ道の東側溝推定線上に位置しており、その検出が期待されました。しかしながら、流路の影響による流失か、当初から設けられなかったか検出はできませんでした。